

総務委員会視察報告

日時 7月31日から8月2日まで

視察先 長崎市役所

件名 空き家対策について

概要

近年の人口減少と高齢化に加え、長崎市特有の斜面市街地の人口流出により、長年放置され適切に管理されていない空き家が増加している。老朽危険空き家対策事業として土地、建物が市に寄附できることや解体後の土地の維持管理を地元住民で行えること、所有者が市税を完納していること等を条件に、行政が撤去・整備を行った後、更地にして公共空間(公園、駐車場、ごみ置き場等)を作り、自治会と協力して安心安全を確保している。また個人で解体する場合、除却費の一部(最大50万円)を補助している。除却件数も年々増加しており、大きな成果を上げている。

所感

長崎市は、危険家屋を更地にするだけでなく、防災という観点から

の生活通路の確保、また自治会と連携しての更地の維持管理や公共空間(公園、駐車場、ごみ置き場等)としての活用がされていることも、よく考えられていた。町内にも国・県・関係機関と連携して撤去を取り組むべき危険建物があり、今後も危険な老朽空き家は増加が確実視されている。地元住民と協議しながら安心安全な住環境づくりのため、条例を制定し、体制を構築しておく必要性を感じた。

視察先      NPO 機構   ユマニテ佐賀

件名          「わいわい！！コンテナプロジェクト」

概要

「佐賀市街なか再生計画」に基づき、市街地再開発ビルとデパート、歴史文化ゾーン、商店街の4つの拠点を結ぶ、空き地数ヵ所に街中を歩いてもらうための中古コンテナを設置し交流空間（にぎわい）を創出。自由に遊べる芝生広場やミニ図書館、アンテナショップ、また起業を目指すための店舗経営の経験を積む場としての活用もされている。コンテナで商売をしてから、市街地の空き店舗で開業した人も多数いる。

所感

市が、リーダーシップのとれる NPO に委託し、東京で起業している佐賀出身の人材や企業と協力して、地元の大人も子供も集まれる仕組みを作っていた。中古コンテナ活用や手作りでの芝生張りなど財政負担を少なくし、住民と一緒に取り組み、幅広い世代が憩いの場として楽しんでいることが注目点であった。コナン通りの空き地にコンテナ設置し賃貸により商売をしてもらい、その後、町内での起業を促す仕組み作りを考える必要性もある。

視察先 呉市役所

件名 空き家対策について

概要

戦前の人口急増に伴い、山の斜面に建てられた住宅には廃屋が多い。空き家再生等推進事業として個人に 30 万円を上限に家屋解体費用を補助している。予定の 3 倍以上の申し込みがあった。

所感

住民からの苦情が相次ぎ、議会政策研究会で協議し、議会提案で条例制定をした。平成 24 年末までに 229 件の相談があり指導等により 117 件と半数しか改善（解体、応急処置）されていないが市民からの

相談に実質数字の成果で応えている姿は見習うべき。町内にも解決しなければならない案件があり、現実的な問題解消が迫られている。町民の安心安全を守りたいという思いは、議会・行政ともに共通のものであり、住民と協調して問題に取り組むべきである。